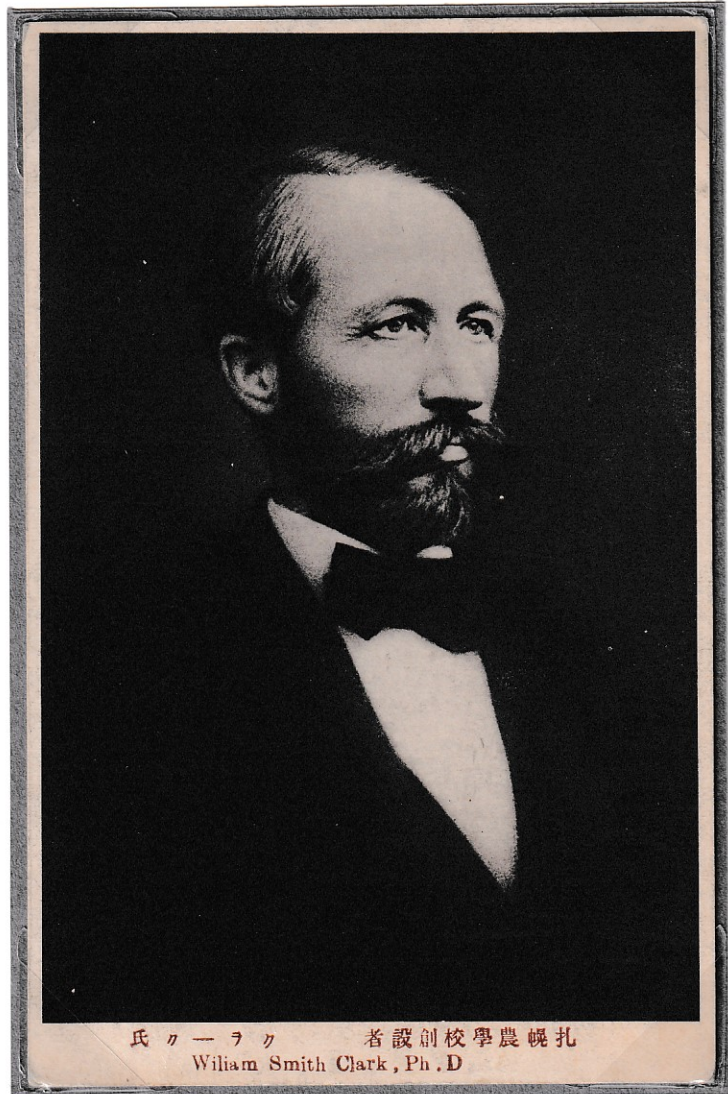


札幌農学校

明治維新から間もない1876年(明治9年)、北海道開拓に必要な人材育成を期して、札幌農学校は誕生した。W・S・クラーク博士を筆頭とする3人の米国人教師を中心に僅か24名の学生たちから始まった歴史は間もなく150年を数え、幾多の人材を輩出しつつ、今も北海道大学として発展を遂げている。この作品では当時の絵葉書や関係者の手紙、エンタニアなどを中心に、開校してからの31年間とその後の発展の歴史を展示します。



氏クラーク 者設創校學農幌札幌
William Smith Clark, Ph.D

	プラン	リーフ頁
I .	札幌農学校開校とクラーク博士	2
II .	札幌農学校の記憶	3 ~ 6
III .	札幌農学校が輩出した先人たち	7 ~ 12
IV .	札幌農学校の発展	13 ~ 16

I. 札幌農学校開校とクラーク博士

1869年(明治2年)、明治新政府は北海道開拓に必要な人材育成と、民衆の国家意識の形成に寄与する学校設置を掲げて、開拓使を設置した。その開拓使次官に任命された黒田清隆は多くの米国人を顧問として招聘すると共に留学生を派遣をするなど、開拓人材の育成を図っていたが、1872年(同4年)に先ず、東京の芝増上寺に開拓使仮学校を開設。4年後には札幌に移転して、札幌農学校を開校した。教授陣はマサチューセッツ農科大学学長だったウィリアム・S・クラークを招聘し、その弟子たちの計3名の米国人が中心であった。第一期の入学生は後の東北帝大農科大学学長となった佐藤昌介ら24名が全国から集められた。

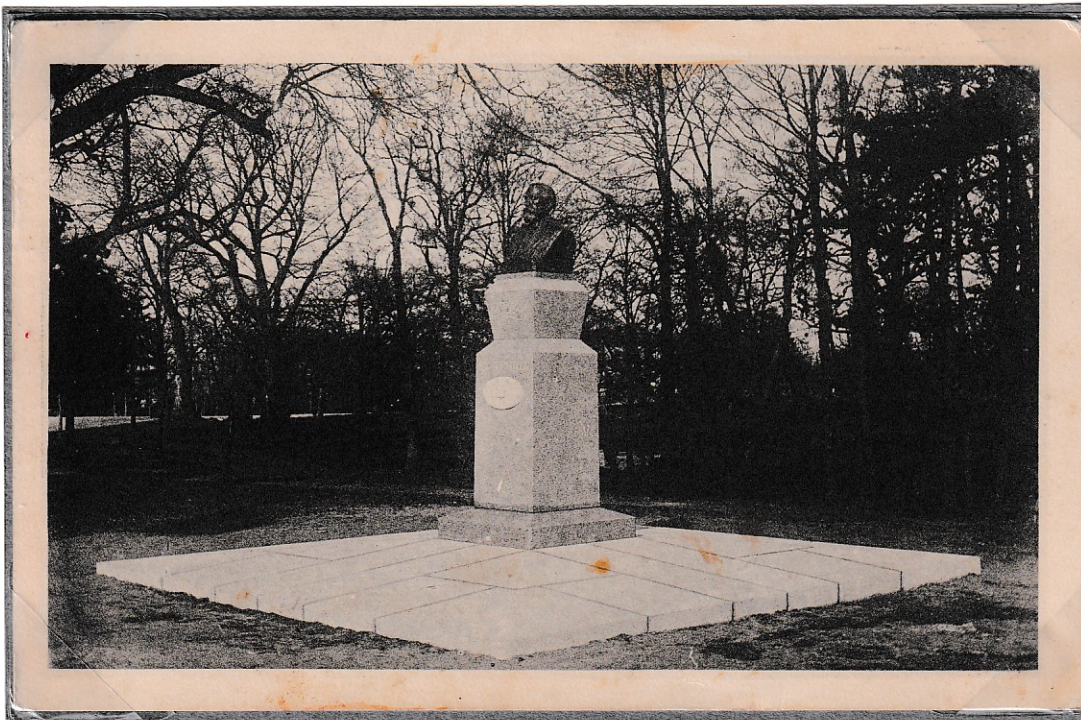


北海道開拓使黒田清隆長官と札幌農学校教頭 W・S・クラーク博士

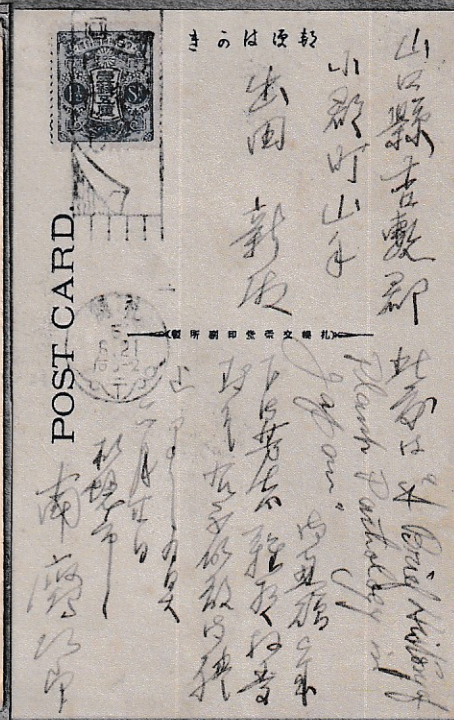


開校百年後の1976年に使用されたクラーク博士像を描く記念小型印

W・S・クラーク博士は1876年7月に札幌農学校教頭として教え子のW・ホイラーらと共に赴任し、農業と化学を専門に担当した。また、クラーク博士は毎朝「聖書講義」を実施して、キリスト教を伝え、学生たちはクラーク起草の「イエスを信ずる者の契約」に署名した。博士は僅か10カ月で帰国したが、見送る学生たちに「Boys, be ambitious!」と語った逸話は余りにも有名である。農学校に大きな足跡を遺した博士の功績を讃え、後年、北海道帝国大学の校庭には博士の銅像が建立された。



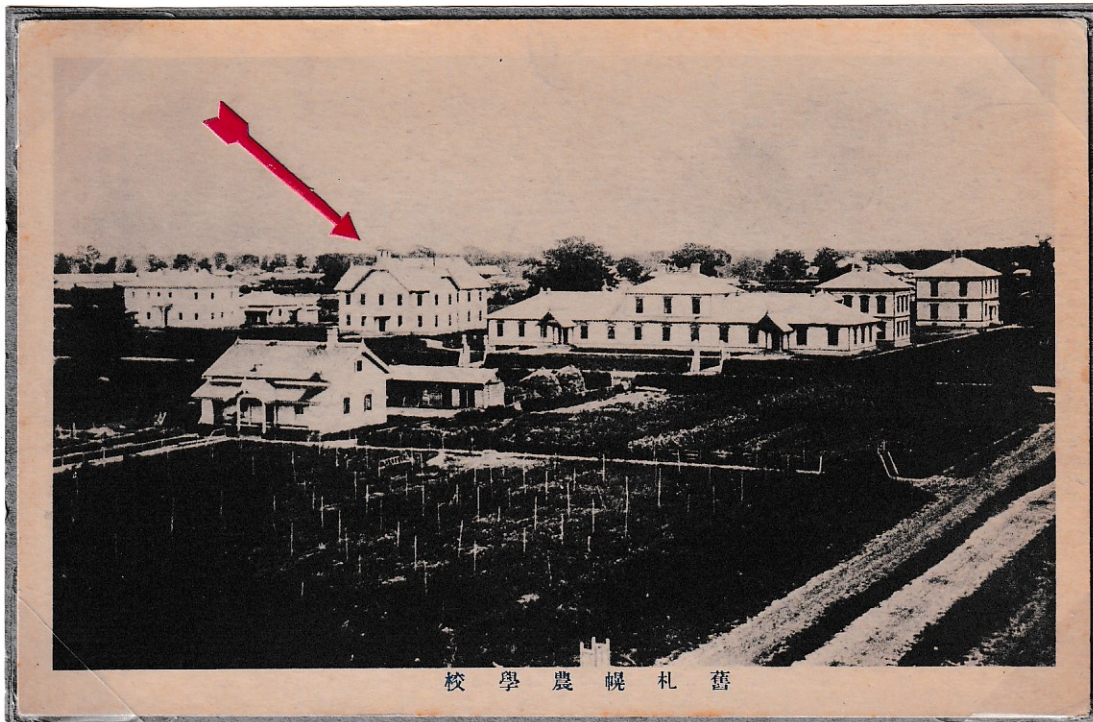
北海道帝国大学校庭のクラーク博士像



北海道帝大第二代学長南鷹次郎の直筆葉書(裏面:縮小率60%)
1930年(昭和5年)6月21日 札幌→山口

II. 札幌農学校の記憶 (1)

札幌農学校は開校前年の1875年に札幌の中心部、現在の北1条~2条、西1丁目~2丁目に造成された。校舎は外国人宿舎を改造した北講堂と新築の寄宿舍各1棟であったが、翌々年、舎密所や農学本館を兼ねた演武場が増築され、キャンパスが完成した。



明治11年の北1条キャンパス全景を写した絵葉書

左上に見える時計台はクラーク博士と共に来日したホイラー博士が設計し、明治11年に演武場として竣工。明治39年に現在地に移転した後も重要文化財として残る札幌農学校の遺構である。

札幌中心部の市街地化が進行するに伴い、1899年(明治32年)より、札幌農学校は北8条以北へ移転することとなり、新しいキャンパスが造成された。



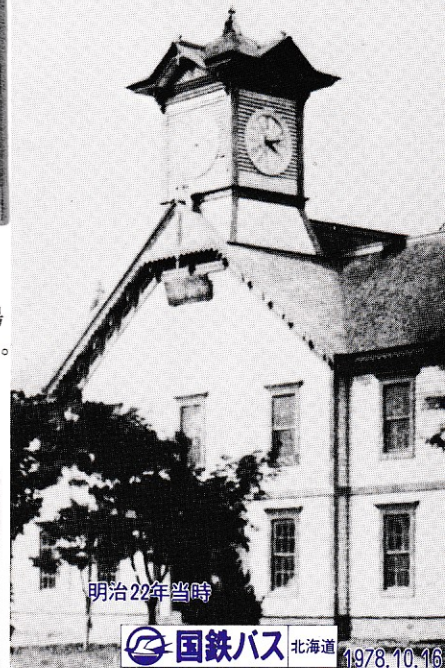
SAPPOLO AGRICULTURAL COLLEGE. 札幌農学校

新たに整備された北8条キャンパスの雪景を写した絵葉書



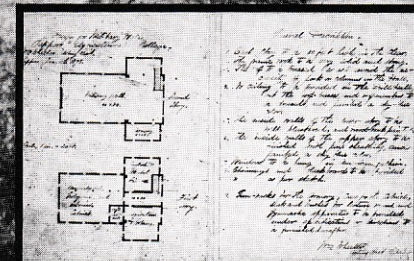
旧札幌農学校演武場

時計台100年記念



明治22年当時

国鉄バス 北海道 1978.10.16



ホイラー博士直筆の設計図

国鉄バス

時計台前 → 110円区間

発売当日限り有効・下車前途無効

◎札幌駅発行

II. 札幌農学校の記憶 (2)

文部技師中條精一郎が設計した北8条の新キャンパスは時計塔をもつ農学講堂をシンボリックに正面に据え、そこに至る導入路の両脇に各教室を配置して、対になる建物同士のデザイン要素を共有させていた。



新キャンパス竣工から80年後の1979年に使用された、農学講堂を描く記念小型印



講堂と教室が立ち並ぶ北8条キャンパスを描く絵葉書



1975年に使用されたモデルバーン(模範畜舎)を描く小型印

新校舎周辺の広大な附属農場の一部はクラーク博士の大農経営構想に基づいて明治9年にカレッジファームが造成され、実践的農業教育が行われた。特に模範家畜房や穀物庫は日本最古の洋式農業建築であり、現在の北19条に移転後の1969年、9棟が重要文化財に登録された。



附属農園を描く絵葉書



附属農場の乳牛からの製造実習品として昭和32年~62年に瓶詰生産された北大牛乳の瓶蓋

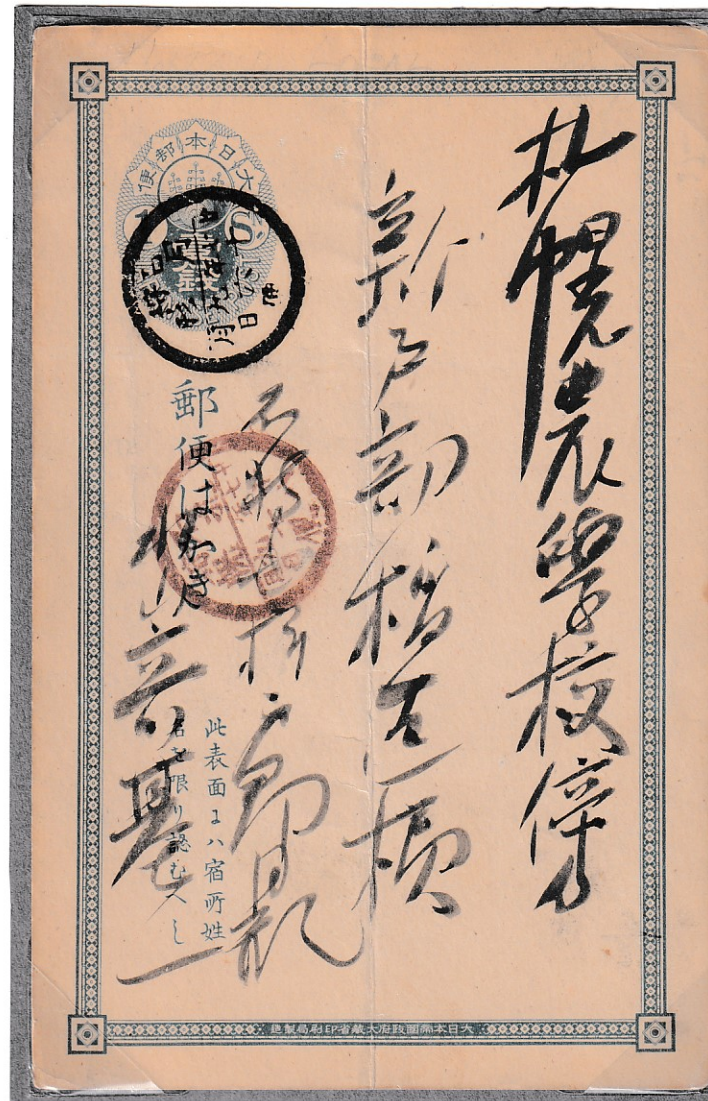
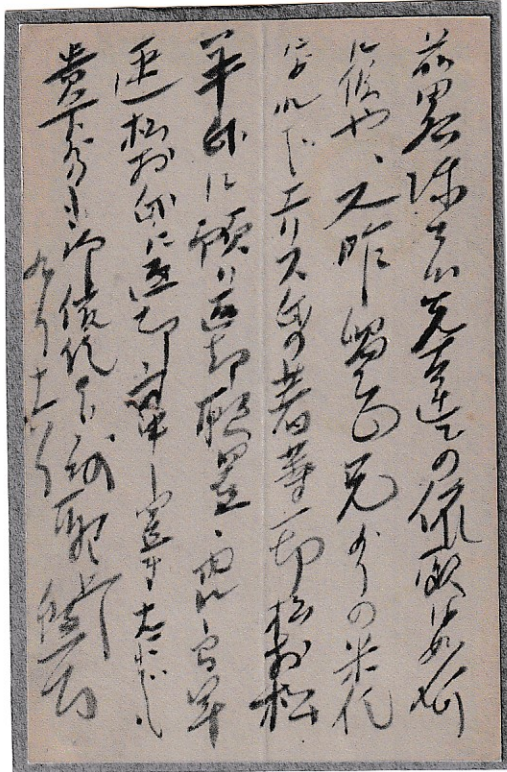
II. 札幌農学校の記憶 (3)

開校から150年近く経ち、農学校宛や関係者差出の実郵便は少ない。

住所表示なしで配達された新渡戸稲造教授宛葉書実郵便

明治27年9月16日 石狩月形 → 9月17日 石狩札幌

裏面 (縮小率70%)

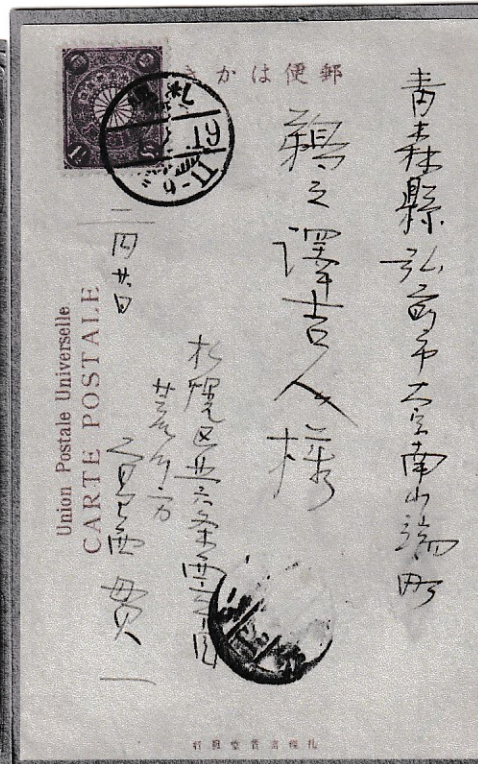


札幌農学校絵葉書使用実郵便 年月日不明 札幌→青森

宛名面 (縮小率70%)



A PART OF THE SAPPORO AGRICULTURAL SCHOOL. 札幌農学校構内



II. 札幌農学校の記憶 (4)

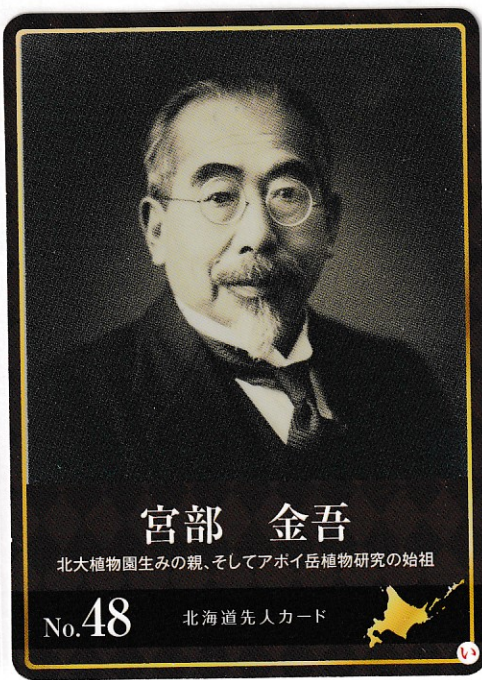
札幌農学校では校名が印刷された封筒が使用されていたが、現存するエンタニアは極めて少ない。

明治34年 石狩札幌→東京宛



Ⅲ. 札幌農学校が輩出した先人たち

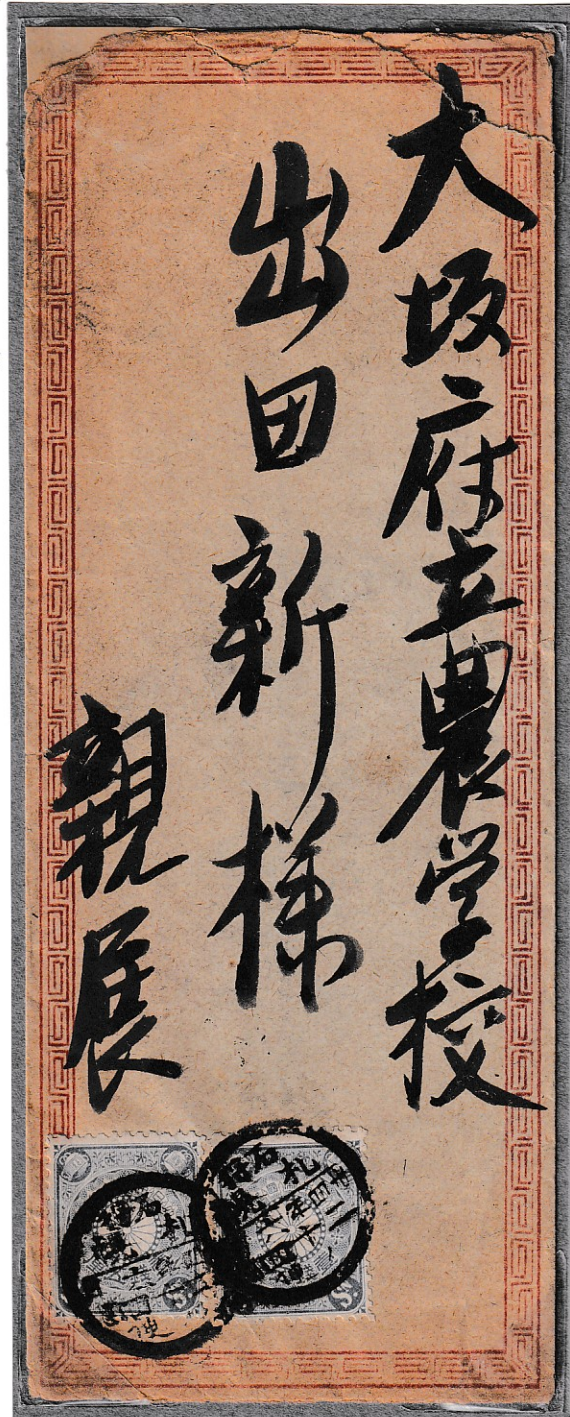
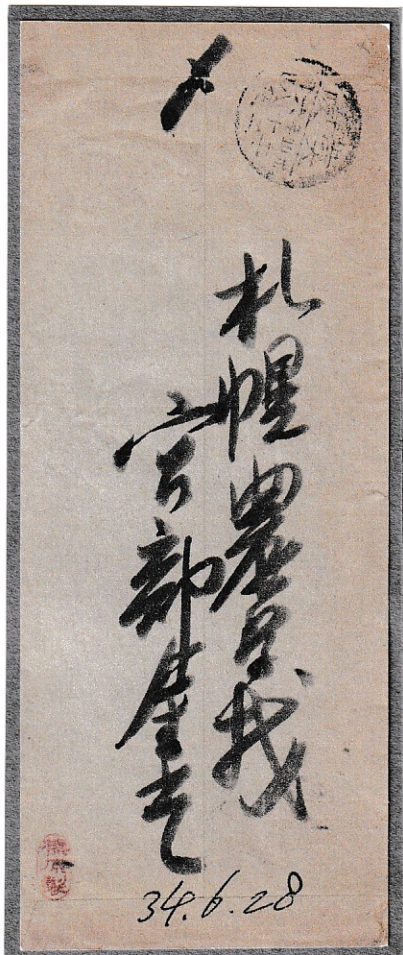
1. 宮部 金吾 (1860~1951) (1)



万延元年、江戸下谷生まれ。明治10年、内村鑑三・新渡戸稲造らと共に札幌農学校に2期生として入学。クラーク精神を受け継ぎ、熱心なクリスチャンになった。同14年卒業後、開拓使御用掛となり、植物研究のために駒場農学校(現東京大学農学部)へ派遣された。明治16年、農学校付属植物園開設を命じられ、助教授として帰校。植物園を設計した後、明治17年に北海道から千島にかけての植物を採集し、13ヘクタールに及ぶ附属植物園を造成した。明治19年、農学校で初めての官費留学生としてアメリカのハーバード大学で植物学・樹木・海藻を研究し、博士号を取得。同22年に帰国して後、母校の教授に就任し、植物学・植物病理学を担当。昭和2年定年退官後には北海道帝国大学初の名誉教授となった。同21年、北大初の文化勲章を受章。また、同24年には札幌市名誉市民第一号となった。長年園長を務めた北大付属植物園には宮部金吾記念館があり、宮部植物学は北大で脈々と受け継がれている。

札幌農学校第11期生で大阪府立農学校の出田新博士宛の実通便

1901年(明治34年)6月24日 石狩札幌→大阪

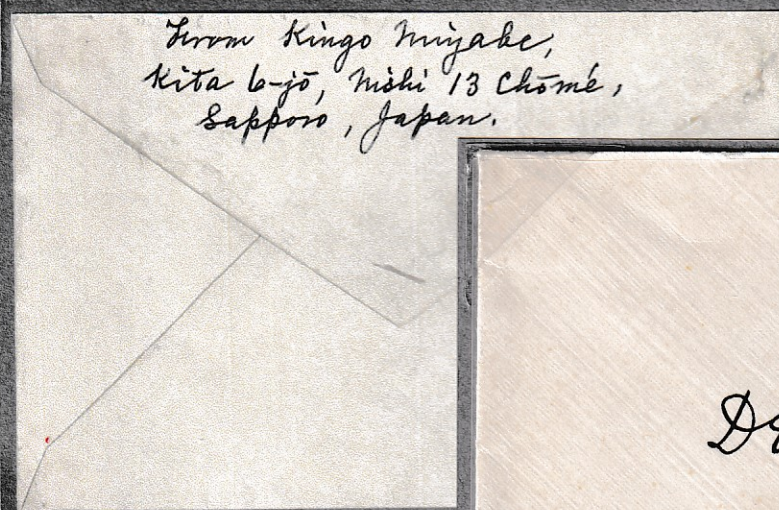
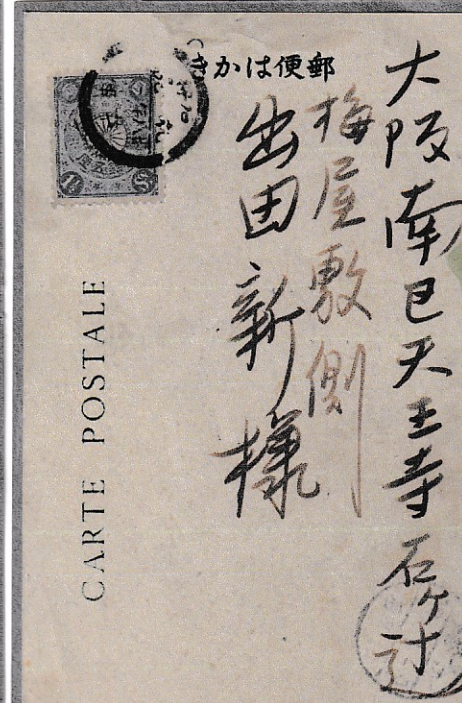


III. 札幌農学校が輩出した先人たち

1. 宮部 金吾 (1860~1951) (2)

宮部金吾は明治16年に札幌農学校に助教授として帰校。同19年にハーバード大学に留学後、同22年に東北帝大農科大学となった母校に教授として再度帰任。北海道帝大になった後も植物学の研究と教育に尽力し、クラーク博士の親族とも音信を続けていた

東北帝大農科大学教授時代の直筆年賀状実通便 1905年(明治34年)1月1日 石狩札幌→大阪
同窓の植物病理学者だった出田新博士に宛てて、植物学教室に標本保存用のさく葉室が開設されたことを伝えている。



宛名面 (縮小率70%)
北海道帝大教授時代の直筆封筒実通便 1918年(大正7年)1月8日
札幌→アメリカ・シンシナティ

裏面 (縮小率70%)
当時、シンシナティ大学の教授だったクラーク二世宛に送られた直筆エンタアイ



Ⅲ. 札幌農学校が輩出した先人たち

2. 新渡戸 稲造 (1862~1933)

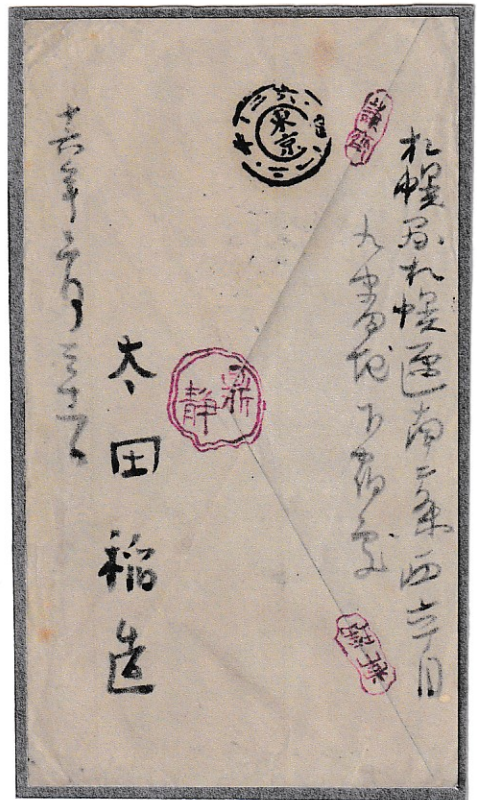


文久2年、陸奥国岩手郡の盛岡藩士の三男として生まれ、幼児期から西洋への憧れを抱いて育つ。9歳で東京の伯父太田時敏の養子となって上京し、13歳より東大の前身であった東京英語学校に学んだ後、15歳で開学間もない札幌農学校に2期生として入学した。内村鑑三らと共に農学を学び、帰国していたクラーク博士の遺した「イエスを信ずる者の契約」に署名して入信。卒業後は東大に入学するも飽き足らず、翌年に退学。「太平洋の橋とならん」と私費で渡米し、ジョンズ・ホプキンス大学に学んだ。明治20年に札幌農学校からドイツ留学を命ぜられ、ボン・ベルリン大・ハン大学で農政学を研究。明治24年に帰国し、札幌農学校教授に就任。その後も台湾総督府技官、京都帝大教授、第一高等学校校長、東京帝大教授、国際連盟事務次長を歴任した。帰国後は帝国学士院会員、貴族院議員に選出された。日本の農政学・植民政策論の先駆者であり、初の農学博士として著名であるのみならず、理想主義・人格主義の思想家として、教育者として活躍した。主著「武士道」は広く世界に日本を紹介することとなった。

この封書は明治16年、札幌農学校同窓生の高木玉太郎に宛てた直筆の実通便。太田家の養子となっていたため、「太田稲造」の名で差出されており、手紙はすべて英語で書かれている。札幌農学校ですべて英語で講義を受けて以来、内村鑑三・高木玉太とは日常の会話や手紙をすべて英語で交わし、英語習得に励んでいた。

明治16年(1883年)3月31日 札幌→東京・本郷

裏面 (縮小率70%)



新渡戸稲造著

©NTT ホワイトテレホンカード 50

Ⅲ. 札幌農学校が輩出した先人たち

3. 内村 鑑三 (1861~1930)

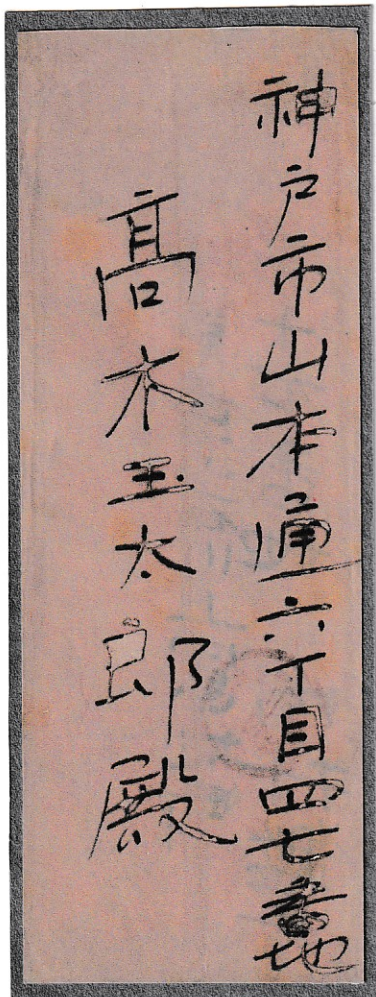
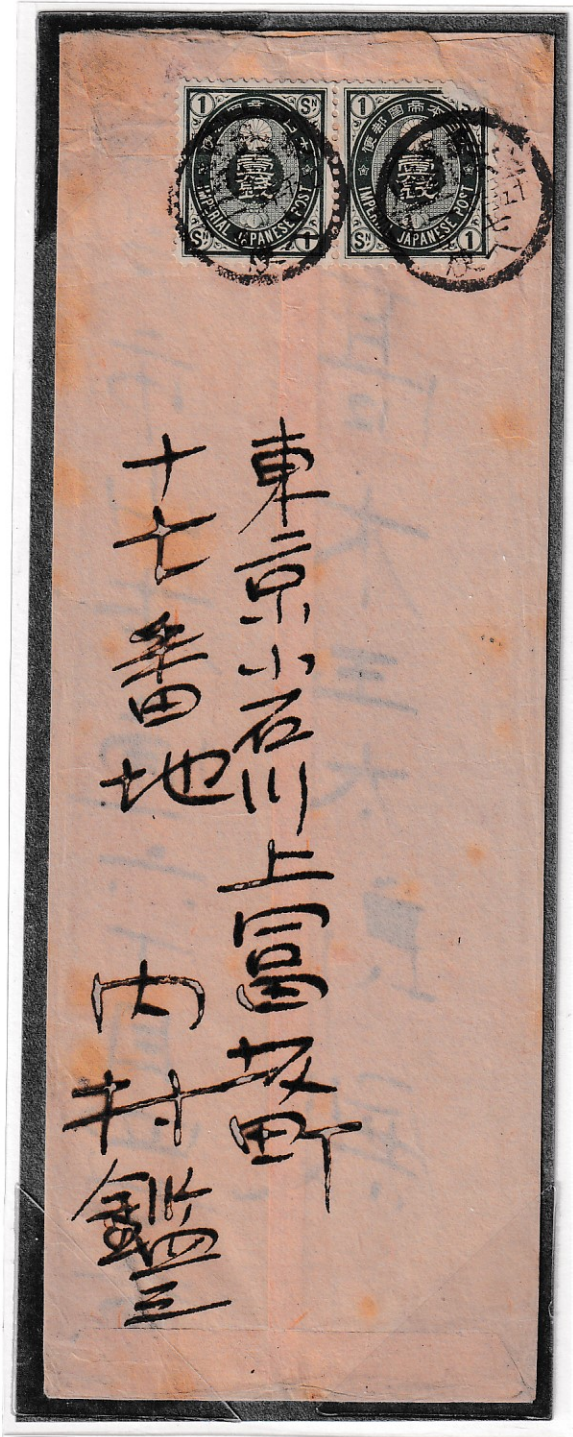


万延元年、高崎藩主の長子として江戸藩邸に生まれた。明治6年、東京英語学校に入学して後、明治10年、開学間もない札幌農学校に2期生として入学。W.S. クラークの感化を受けて洗礼を受けた。農学校では水産学を専攻し、明治14年に首席で卒業。北海道開拓使民事局で水産を担当する傍ら札幌基督教会を設立した。明治17年に渡米してアマースト大学で理学士の学位を取得。ハートフォード神学校でもキリスト教伝道師となるべく神学を学んだ。帰国して、明治23年、第一高等中学に勤めたが、翌年、有名な不敬事件で辞職。「万朝報」の記者となった。明治33年、「聖書之研究」を創刊、聖書研究会を開き、無教会主義を唱えた。足尾銅山鉍毒事件反対運動に加わり、日露戦争に際しては非戦論を主張。思想家、宗教家として、昭和5年に死去するまで波乱の人生を送った。著作に「余は如何にして基督信者になりしか」「代表的日本人」などがある。

この封書は明治25年、万朝報の記者時代に、札幌農学校同窓生の高木玉太郎に宛てたもの。手紙には新年の挨拶や身の周りの近況報告などがすべて英語で記されている。

明治25年(1892年)1月7日 東京・小石川→神戸

表面 (縮小率70%)



Ⅲ. 札幌農学校が輩出した先人たち

3. 内村 鑑三 (1861~1930)

内村鑑三が札幌農学校同窓生だった高木玉太郎に宛てた直筆の手紙。札幌農学校で講義を英語で受講して以来、英語習得のために高木玉太郎や新渡戸稲造とは日常会話や手紙はすべて英語で交わっていた。 明治25年(1892年)1月7日東京・小石川→神戸

17, Kami Tomizaka
Machi,
Koishikawa,
Tokio.
Jan. 7, 1892.

Dear Friend,

Pardon me for my long silence to you. I am getting on as usual, my head still in a drowsy state. I hope you are well. The year that has gone by was the worst we have had, among the circle of our friends, and we do hope that this be a better one.

Iwazaki is still unwell. He has gone to Oiso to recuperate himself.

Wishing you a very happy new year.

Ever your friend

Kanzō Uchimura



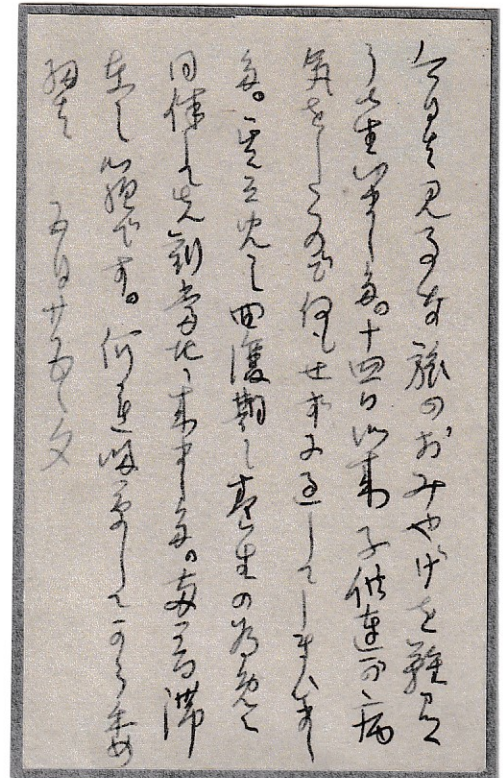
Ⅲ. 札幌農学校が輩出した先人たち

4. 有島 武郎 (1878~1923)



明治11年、東京の大蔵省官僚の長男に生まれ、10才で学習院予備科に入学。皇太子の学友に選ばれたり、小説を執筆したりしながら明治29年に同中等科を卒業。同年、札幌農学校教授だった新渡戸稲造の縁で同校入学。異色の農学生となって1カ月後には小説「根なし草」を執筆した。在学中には校歌を作詞したり、内村鑑三を訪ねてキリスト教にも入信した。卒業後は明治34年にハバフォード大学院・ハーバード大学に留学して、経済と歴史を学び、欧州を巡歴した。明治40年帰国後は母校の英語教師になり、大正6年に退職するまで新渡戸稲造が創設した、学校に通えない子供たちのための遠友夜学校の運営に尽くした。札幌を去って再び欧州を巡歴した後、明治45年に志賀直哉・武者小路実篤らと同人誌「白樺」を創刊白樺派の代表作家として「カインの末裔」「生まれ出ずる悩み」「或る女」などを発表し、文壇で大いに活躍した。札幌農学校在学中に作詞した校歌「永遠の幸」は今も北大生に歌い継がれている。

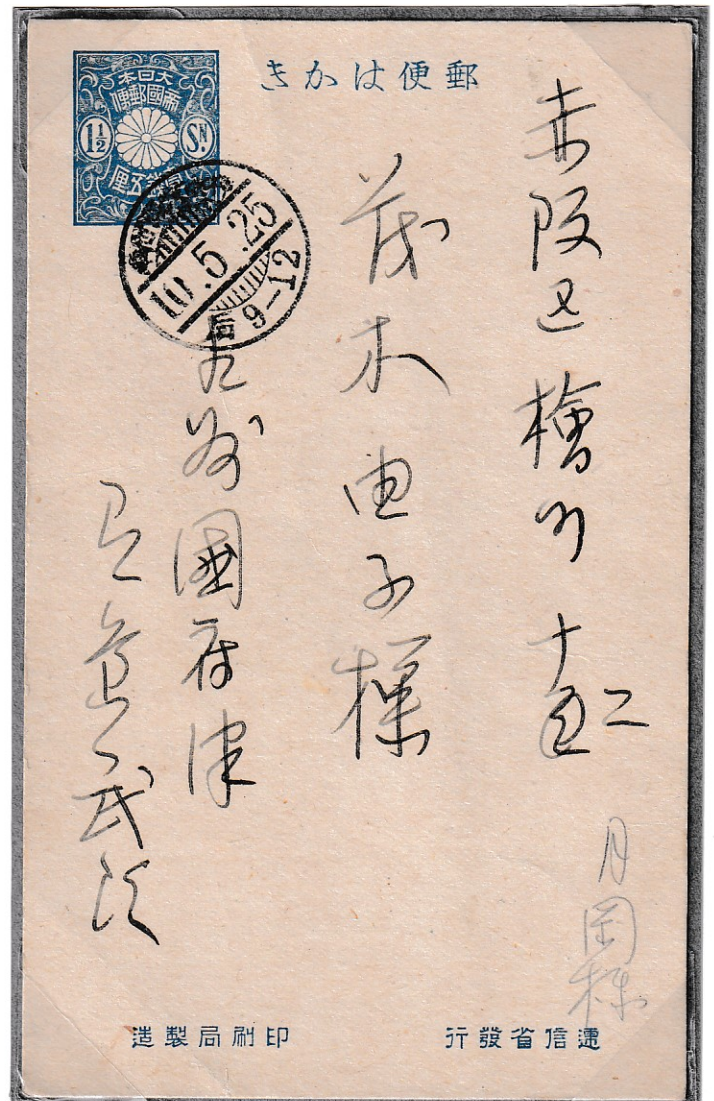
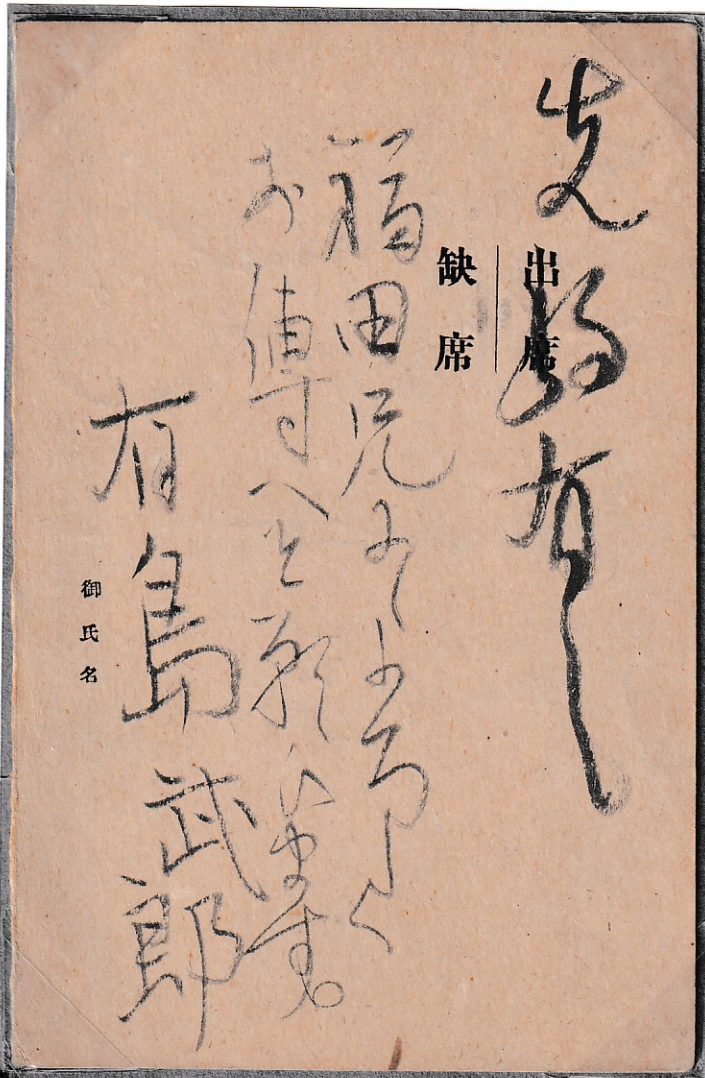
右下の葉書は作家の茂木由子に宛てた直筆の葉書で、土産の御礼や我が子の病気のことなどを伝えている。



詩人の白鳥省吾宛の直筆葉書の裏面

大正10年(1921年)5月25日 局名不明→東京・赤坂

裏面 (縮小率70%)





IV. 札幌農学校の発展

1. 東北帝国大学農科大学

1907年(明治40年)、札幌農学校は東京・京都帝国大学に続く帝国大学に昇格し、東北帝国大学農科大学となった。大学本科・予科・大学院からなり、初代学長は佐藤昌介であった。国家予算に加えて、古河財閥からの寄付が寄せられ、予科及び実科教室、農芸化学教室、林学教室など1,300坪の校舎が新規に建設された。

開校記念印つき絵葉書



札幌農科大学 昆虫学講堂
ENTOMOLOGICAL LABORATORY, THE TOHOKU IMPERIAL UNIVERSITY, SAPPORO



CARTE POSTALE

其の如く無言の打過
本大学に於ては今日まで
未だ用紙式厚紙は
用紙式を以て致し幅
の差を廿二釐八百
生之倉に在りては燈
打刺さるい何れを
リ中 敬物 仰せ
九月九日

The Tohoku Imperial University
COLLEGE OF AGRICULTURE
Sapporo, Japan

R TOKIO
No. B 74



Via Sibirien.

Herr Prof. Severin,
Musee Royal Histoire Naturelle
de Belgique.
31, Rue Vantier,
Bruxelles,
Belgique.

254

票號番
七四壹

書留

ハッギー・ムブラッセル市
セブリン氏行



在学中だった、後の
北海道帝大中島九郎
教授直筆葉書実通便

1907年(明治40年)
9月11日 開校初日

札幌 → 北見

東北帝国大学農科大学
校名入り封筒書留実通便

1913(大正2年)

2月15日 札幌北七条

2月27日 東京

3月5日 ベルギー・ブリュッセル

IV. 札幌農学校の発展

2. 北海道帝国大学 (1)

1918年(大正7年)、医学部の開設が決定し、我が国5番目の帝国大学として北海道帝国大学が発足した。1924年(大正13年)には工学部、同30年(昭和5年)には理学部も開設され、総合大学として発展を遂げた。

北海道帝大創立50年絵葉書 工学部



新部學五學大國帝道海北



堂講央中學大國帝道海北

北海道帝大創立50年絵葉書
初代総長佐藤昌介と中央講堂



From Kiyo Miyabe,
Sapporo, Japan.



裏面 縮小率(50%)

北海道帝大校名入り封筒実郵便
1925年7月1日農学部植物学教室
宮部金吾教授

↓
1925年7月25日 アメリカ
ケンブリッジ クラーク二世宛

The Hokkaido Imperial University
COLLEGE OF AGRICULTURE
BOTANICAL INSTITUTE
Sapporo, Japan

Mr. W. S. Clark, Jr.

R. F. D. 1,

Franklin,
N. H.,

~~9 Ashton Place,~~

~~Cambridge, Mass.,~~

U. S. A.





IV. 札幌農学校の発展

2. 北海道帝国大学 (2)

1930~40年代, 北海道帝国大学の研究は学会各賞の受賞も多く、隆盛を極めた。中でも理学部中谷宇吉郎教授は「人工雪の生成」で学士院賞を受賞したが、日中戦争が起こると多くの研究が軍事研究に転用、傾斜せざるを得なくなっていった。1936年10月には北海道で初めて陸軍大演習が行われたが、農学部本館が大本営に充てられ、昭和天皇の行在所となった。

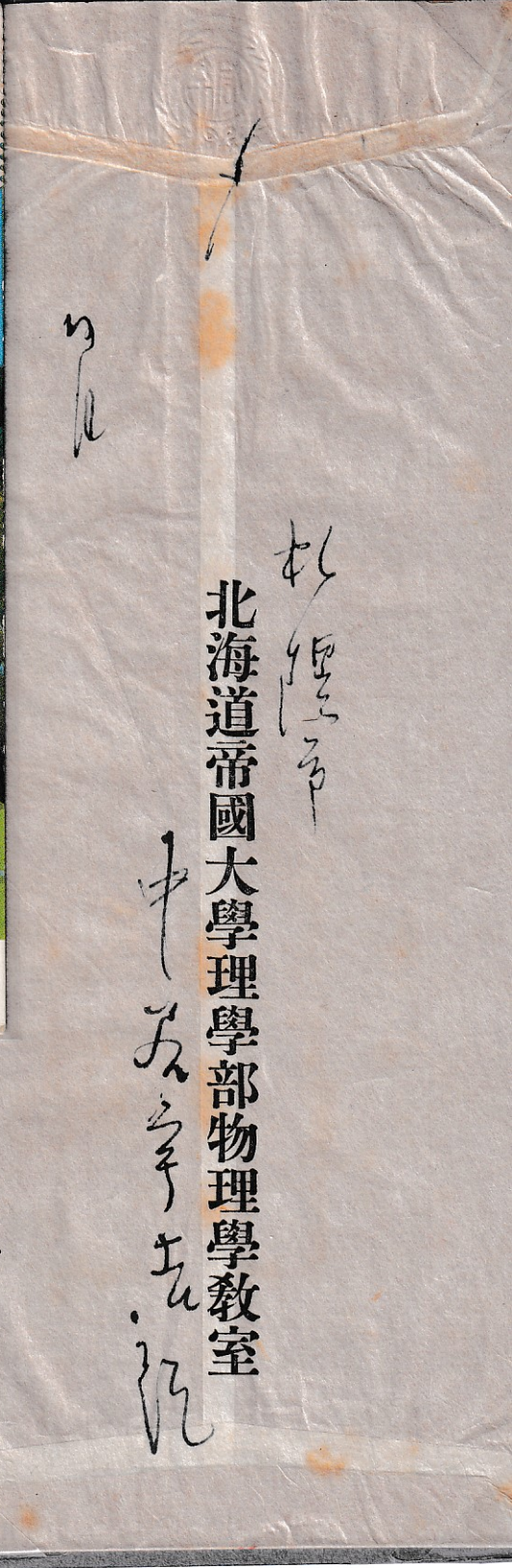
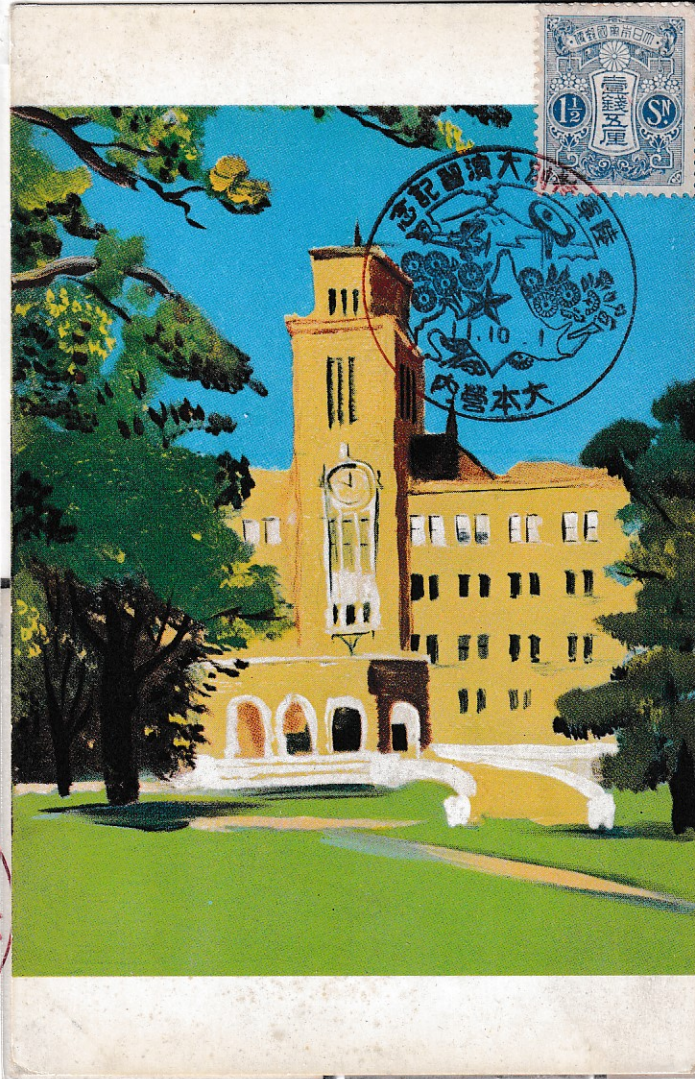
理学部 中谷宇吉郎教授による人工雪の生成・研究

陸軍特別大演習記念印つき葉書 1941年10月1日 大本営内 理学部中谷宇吉郎教授直筆校名入り封筒実通便



天皇行幸記念特印 付き記念葉書

1941年(昭和11年) 10月9日 札幌



札幌市
北海道帝国大学理学部物理学教室
中谷宇吉郎



昭和十一年陸軍特別大演習 大本営及行在所北海道帝国大学農学部

北海道帝国大学文学部



京都府京都市大
地 地球物理学教室
長 沼川 戸 吉
札幌

IV. 札幌農学校の発展

3. 北海道大学

戦後間もない1949年(昭和24年)5月に新制北海道大学が設置された。帝国大学時代の4学部(法文・教育・水産・農学)を加えた7学部と低温科学・応用電気・触媒の3研究所が置かれた。翌年以降も法・文・経済・獣医・薬・歯学部が分離・新設され、国立大学法人となった現在は12学部、21大学院、5研究所等を擁する総合大学として発展を続けている。1876年に僅か24名で始まった札幌農学校の歴史は3年後に創基150年を迎えようとしている。

北海道大学校名入り葉書裏通便 1952・3・22 札幌→ロンドン

北海道大学創立80周年記念小型印つき絵入り官葉 1956・9・15 札幌



北海道大学 農、醫、工、理學等十學部、附屬研究所や病院等、明治、大正、昭和三代に亘る各種の建築物を、松ノ木(ニルム)の老樹茂り、緑のローソンの連なる廣大な敷地に配置し、運動場、試作場等も廣く、田園の氣に溢れています。(寫眞は理學部攝)